

報告事項ソ

平成25年度第1回教育審議会生涯学習分科会兼社会教育委員会議の概要について

平成25年度第1回教育審議会生涯学習分科会兼社会教育委員会議の概要について、別紙のとおり報告します。

平成25年10月28日

鳥取県教育委員会教育長 横 濱 純 一

平成25年度第1回鳥取県教育審議会生涯学習分科会兼 鳥取県社会教育委員会議の概要について

家庭・地域教育課

- 1 日時 平成25年10月2日（水）午前10時から正午まで
- 2 場所 県庁第21会議室
- 3 出席者 委員8名（4名欠席）、事務局7名
- 4 会議の概要

（1）平成26年度の社会教育関係団体への補助金の考え方について

- ・平成23年度に導入した現行の補助制度の見直し時期に当たっているため、補助額等について、各委員から意見をいただいた。
- ・補助対象団体は、現行の7団体（鳥取県PTA協議会、鳥取県高等学校PTA連合会、鳥取県連合婦人会、鳥取県連合青年団、ガールスカウト鳥取県連盟、日本ボーイスカウト鳥取連盟、鳥取県子ども会育成連絡協議会）で了承。
- ・補助額については、平成23～24年度の活動実績に応じて上限を定め、「人材育成」「調査研究」等に係る事業に対し1/2補助することです承。
- ・事務室使用料の10/10補助の考え方については、各団体の財政事情から当面は継続することです承された。

- [委員からの主な意見] -

（社会教育関係団体に補助しない県もあることについて）

- ・県外研修等で学んだ成果を持ち帰って、各会員に十分還元できているなら補助することは有益。

（活動実績に応じた補助金上限の設定について＝増額：5団体、減額：2団体）

- ・補助金に見合わない活動しかしていないなら減額や打ち切りもしかたがない。逆に行政から助けてやろうと思われるくらいになるべき。ただ、事業を見直し、無駄をカットして支出しなかったときに減額されてもよいが、その後に団体が打って出ようとしたらきちんと増額するべき。

（補助対象となっている人材育成や指導者養成の事業について）

- ・せっかく育成した者が辞めることも多い。自分の勉強なら自己負担も考えるべき。お金を出してこそ身に付く。団体の運営部分は1/2でよいが、人材育成は補助率を下げてもよいかもしれない。（→他の委員から、団体内で自己負担をかなり求めている実態があること等が紹介された。）

（県立施設内の事務室について、10/10補助（使用料2/3減免＋残り1/3を補助金で補填）としていることについて）

- ・事務室は活動の拠点。団体の財政事業が厳しく、全額補助のままがよい。
- ・しかし、団体側に当然に全額補助されるものではなく、負担軽減策の併用が問題視されていること等をきちんと認識してもらう必要もある。

（今後について）

- ・教育は種まき。すぐに答えが出る分野ではない。県の財政事情もわかるが守るべきところは守ってほしい。また、各団体が意欲を持っているときには、補助金という形でしっかり応援してもらいたい。

(2) 今後の本県の社会教育に係る人材育成について

- ・現状の研修制度の課題（回数が多い、重複感がある等）の解決と、今後の社会教育の方向性（ネットワーク行政）をふまえ、県が行う市町村職員向けの研修を、社会教育主事の専門的な研修に一本化する等の見直しを行うことについて、各委員から意見をいただいた。
- ・各市町村の社会教育主事の力量の向上が、地域の活性化に不可欠との共通認識から、見直しの方向性については了承。
- ・今後、具体的な内容を検討し、必要に応じて次の分科会に諮る。

〔委員からの主な意見〕

（熱意と能力のある社会教育の専門家を養成しようとする事について）

- ・せっかく育成しても、人事異動で簡単に他の部署に異動してしまうこととの整合をどう付けるか。各市町村の人事までには口を挟めない。
- ・学校支援、土曜授業など地域全体が学校を支える時代。ますます地域コーディネーター能力のある者が必要（たとえ首長部局に移管しようが）。
- ・教育は、政治に左右されず安定しているべき。社会教育は首長部局に移るべきではない。こうした人材が養成されれば、各市町村の大きな力になる
- ・誰のために仕事をしているのか、という使命感を植え付けることが大切。
- ・市町村で社会教育に対する熱意に大きな差がある。県内の水準の統一を図るためにもよい施策だろう。

（研修の手法について）

- ・初心者にはよいが、大ベテランで能力もポリシーもある者がいる。そうした者も参加できるようにすべき。丁寧に良い講座にしていくしかない。
- ・単位制にして、自分で選択できるようにしてはどうか？
- ・オールマイティな人材にする必要はない。この者はこれに長じている、でよく、それを各市町村がシェアすればよい。選択制はよいアイデアだ。

（留意すべきことについて）

- ・「地域のエンジンに」という発想はよいが、うまく住民に火を付けて、途中でエンジンを切る（自覚を促す）手法もある。またリーダーになるのはよいが、いつまでもリーダーであつてもいけない。
- ・宿泊研修もよい。ただノウハウを伝えても、それでエンジンにはなれないだろう。経験からでなければ身に付かないものもある。人事異動も大切だが、失敗してもよいくらいの気持ちで、やはり長期間腰を据えて取り組ませることが必要。

(3) 報告：青少年社会教育施設の運営委員会について

- ・船上山少年自然の家、大山青年の家の運営等について、外部有識者等から意見を聴く委員会の開催状況を報告した。
- ・委員からは、指定管理ではなく直営を継続すべきとの意見があった。

(4) 報告：平成26年度以降の県立生涯学習センターの指定管理候補者について

- ・生涯学習センターの指定管理（5年）に向けた手続の進捗状況を説明した。

(5) 報告：鳥取県子どもの読書活動推進ビジョン（第3次計画）の策定について

- ・5年ぶりに改訂をする第3次計画の策定に向けた進捗状況を報告した。